

第5次兵庫県環境基本計画

令和5年度点検・評価結果（概要）

点検・評価の概要 (P1~3)

点検・評価の方法

- ・20項目の重点目標、5分野41項目の施策の取組状況
- ・施策の取組状況は、111項目のひょうごの環境指標から構成

分野別の点検・評価結果

<重点目標・施策の取組状況>

施策分野	R5			R4			R4⇒R5 変化
	◎	○	△	◎	○	△	
I 低炭素	5	8	0	3	10	0	↑
II 自然共生	4	10	2	4	10	2	→
III 資源循環	4	5	4	1	7	5	↑
IV 安全・快適	5	5	2	2	7	3	↑
V 地域力	1	5	1	1	4	2	↑
合計	19	33	9	11	38	12	↑

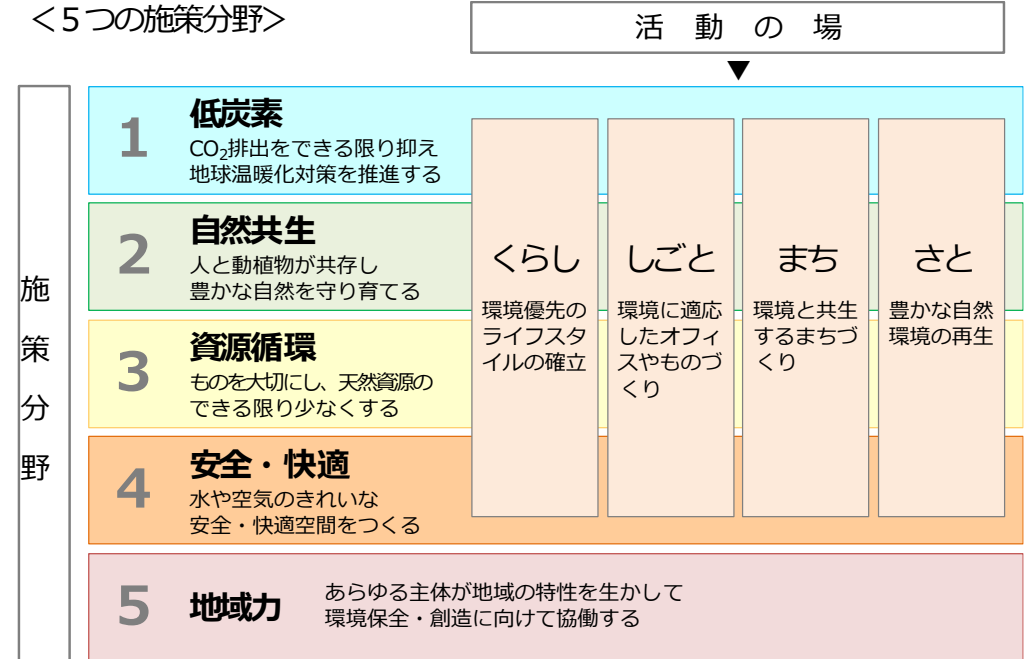
次の基準を目安に評価

- ◎：目標達成率100%以上（特に取組が進んでいる）
- ：目標達成率80%以上100%未満（概ね取組が進んでいる）
- △：目標達成率80%未満（一層の取組が必要）

今回の点検・評価（総評）

- ・木質バイオマス発電所の稼働などにより再生可能エネルギー発電量が増加、1人1日あたりの家庭系ごみ排出量が減少するなど概ね着実に進捗
- ・野生鳥獣による農林業被害額は減少傾向だが目標未達成、持続可能な社会づくりを先導する人材が増加していないなどの課題がある

<5つの施策分野>



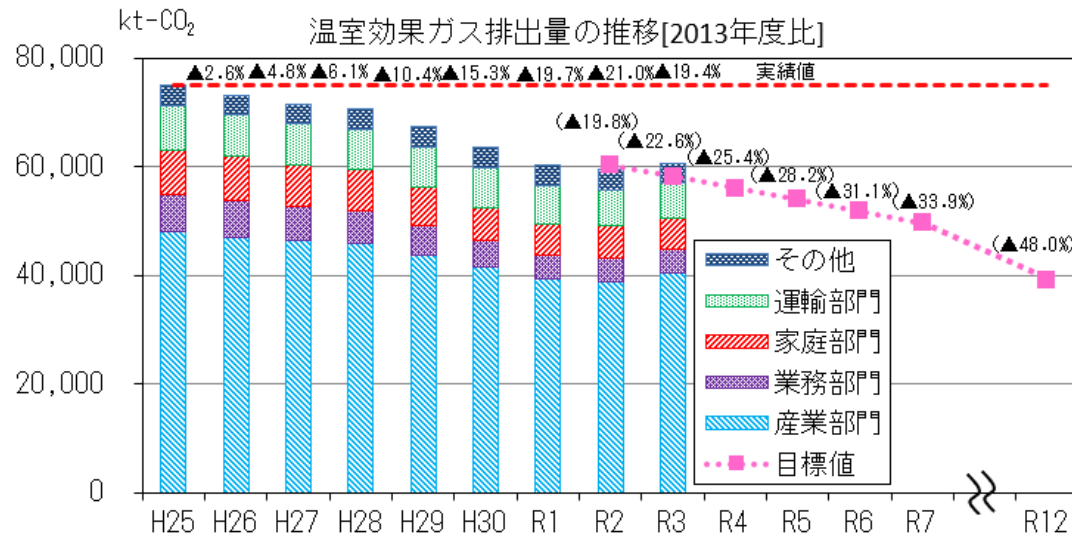
I 低炭素 ～CO₂排出をできる限り抑え地球温暖化対策を推進する～

施策の取組状況 (P3)

区分		項目(重点目標4 施策の取組状況9)	R5 評価	R4 評価
I 低炭素 ◎ : 5 ○ : 8 △ : 0 (R4) ◎ : 3 ○ : 10 △ : 0	重点	R12年度の温室効果ガス排出量48%削減(H25年度比)	○	○
		R12年度の再生可能エネルギーによる発電量100億kWh	◎	○
		R7年度の適応策(地球温暖化による被害の軽減策)の県民への認知度50%	◎	◎
		R12年度までに全ての県庁舎の照明※をLED化(※一部特殊照明等を除く)	○	◎
	くらし	(1)CO ₂ 排出の少ないライフスタイルへの転換	○	○
		(2)住宅、地域等への再生可能エネルギーの導入拡大	○	○
	しごと	(3)低炭素型の経済活動の推進	○	○
		(4)オフィス・ビルの低炭素化	○	○
		(5)事業活動における再生可能エネルギーの導入拡大	◎	○
	まち	(6)環境に配慮した交通の実現	○	○
	さと	(7)CO ₂ 吸収源としての森林の機能強化	○	○
		(8)カーボンニュートラルな資源としての木材利用促進	◎	○
	適応策	(9)気候変動適応策の推進	◎	◎

I 低炭素 ～CO₂排出をできる限り抑え地球温暖化対策を推進する～

重点目標 R12(2030)年度の温室効果ガス排出量48%削減(H25(2013)年度比)【評価：○】 (P4)



- ・2021(R3)年度の温室効果ガス排出量は、H25年度比▲19.4% (目標値▲22.6%を下回る)
- ・県民・事業者・団体・行政等の各主体が一体となり脱炭素化に取り組む必要

【今後の方針】

- ・企業の自主的な脱炭素化への取組促進を目的としたスクールの開催、里山林活用活性化を目的としたコンソーシアム構築などを進める
- ・「ひょうご1.5℃ライフスタイルコンソーシアム」の取組等により、県民の脱炭素型ライフスタイルへの転換を後押し

【各年度の電力排出係数[※]による算定】

(単位：千t-CO₂)

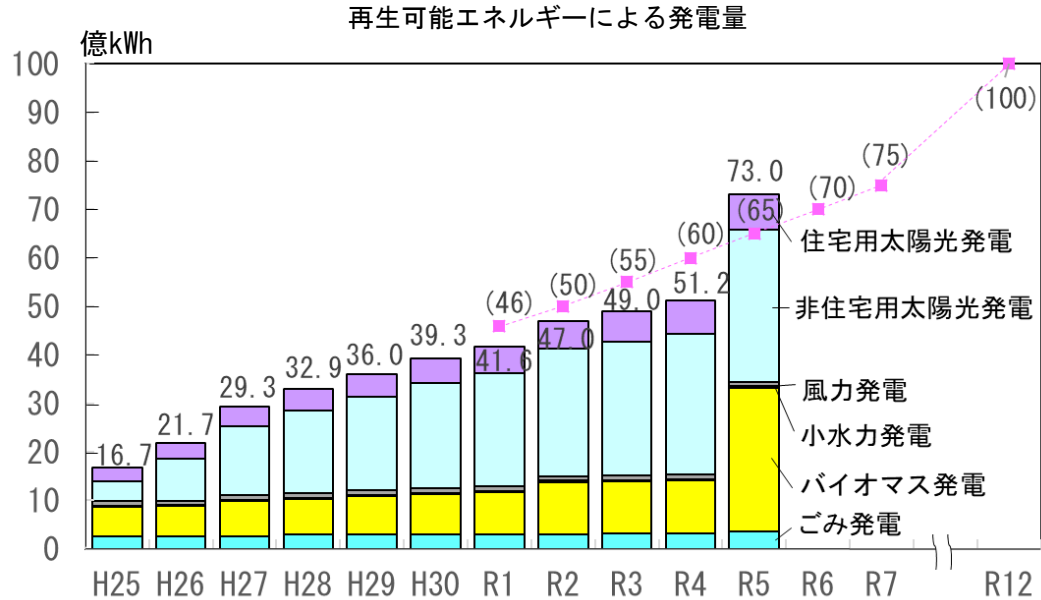
部門	2013(H25)年度排出量	2020(R2)年度(確定値)			2021(R3)年度(速報値) ^{※1}				
		排出量	【構成比】(%)	13年度比 ^{※2} (%)	排出量	【構成比】(%)	13年度比 ^{※2} (%)	前年度比 ^{※3} (%)	
エネルギー起源 二酸化炭素	産業 ^{※4}	47,952	38,912	【65.5】	▲ 18.9	40,502	【66.8】	▲ 15.5	4.1
	業務	6,815	4,395	【7.4】	▲ 35.5	4,256	【7.0】	▲ 37.6	▲3.2
	家庭	8,364	5,919	【10.0】	▲ 29.2	5,745	【9.5】	▲ 31.3	▲2.9
	運輸	8,128	6,496	【10.9】	▲ 20.1	6,494	【10.7】	▲ 20.1	0.0
その他 ^{※5}	3,923	3,680	【6.2】	▲ 6.2	3,626	【6.0】	▲ 7.6	▲ 1.5	
排出量 ^{※6}	75,182	59,402	【100】	▲ 21.0	60,623	【100】	▲ 19.4	2.1	

※1 国、県等の統計データの確定を受け、値を変更することがある。
 ※2 13年度比(%) = (当該年度排出量 - 2013年度排出量) / 2013年度排出量 × 100 (%)
 ※3 前年度比(%) = (当該年度排出量 - 前年度排出量) / 前年度排出量 × 100 (%)
 ※4 エネルギー転換部門を含む。
 ※5 非エネルギー起源二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等
 ※6 四捨五入の関係で一致しない。

注) 電力排出係数(関西電力(株)公表値)は、2013年度：0.516、2020年度：0.350、2021年度：0.309(kg-CO₂/kWh)

I 低炭素 ～CO₂排出をできる限り抑え地球温暖化対策を推進する～

重点目標 R12(2030)年度の再生可能エネルギーによる発電量100億kWh【評価：◎】 (P5)



・2023(R5)年度の年間発電量は、大規模バイオマス発電所の稼働により、昨年度比21.8億kWh増の**73.0億kWhと大幅増加**

【今後の方針】

・都市部における太陽光発電の導入を一層推進するとともに、小水力発電やバイオマス発電等の導入も積極的に進め、大規模な太陽光発電に偏らないバランスのとれた再生可能エネルギーを普及

個別項目 カーボンニュートラルな資源としての木材利用促進【評価：◎】 (P21)

指標	現況値	R5実績値	R5目標値	評価	目標値		[参考]個別計画の目標(目標年度)
					R6	R7	
県内のバイオマス発電施設による発電量(億kWh)	8.0 (H29)	29.6	16.1	◎	18.1	20.1	—

・2023(R5)年度の年間発電量は、昨年度比18.7億kWh増の**29.6億kWhと大幅増加**

個別項目 事業活動における再生可能エネルギーの導入拡大【評価：◎】 (P19)

指標	現況値	R5実績値	R5目標値	評価	目標値		[参考]個別計画の目標(目標年度)
					R6	R7	
県内の再生可能エネルギーによる発電量(住宅用太陽光発電除く)(億kWh)	31.3 (H29)	65.8	58.1	◎	62.9	67.6	—

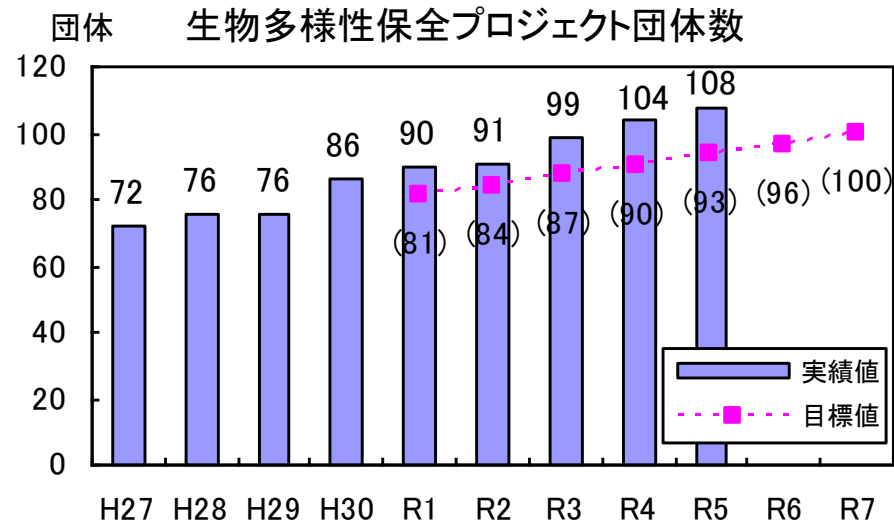
・2023(R5)年度の年間発電量は、昨年度比21.4億kWh増の**65.8億kWhと増加**

II 自然共生 ～人と動植物が共存し豊かな自然を守り育てる～

施策の取組状況 (P3)

区分	項目(重点目標4 施策の取組状況12)	R5 評価	R4 評価	
II 自然共生 ◎ : 4 ○ : 10 △ : 2 (R4) ◎ : 4 ○ : 10 △ : 2	重点	R7年度の生物多様性保全プロジェクト団体数100団体	◎	◎
		R7年度の野生鳥獣による農林業被害額50%削減(H25年度比)	△	△
		R7年度の里山林整備面積33%増(H27年度比)	◎	◎
		R7年度の漁場環境改善面積5,579ha	◎	◎
	くらし	(1)地域の自然環境から学ぶ環境学習・教育の推進	○	○
		(2)公共事業等における環境への配慮	○	○
	しごと	(3)環境に配慮した農業の推進	○	○
		(4)多様な担い手による森づくり活動の推進	◎	○
	まち	(5)自然とのふれあいの推進	○	○
		(6)外来生物対策の推進	○	◎
	さと	(7)生物多様性の保全	○	○
		(8)野生鳥獣の適切な保護管理	○	○
(9)里地・里山や人工林等の適切な管理		○	○	
(10)瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するための取組		○	○	
(11)自然とのふれあいの推進		△	△	
(12)県民への普及啓発		○	○	

重点目標 令和7年度の生物多様性保全プロジェクト団体数100団体【評価：◎】（P7）



- ・ R5年度までの生物多様性保全プロジェクト団体数は**108団体**（目標を上回って増加）
- ・ 生物多様性に係る先導的な取組やネットワークが着実に拡大

【今後の方針】

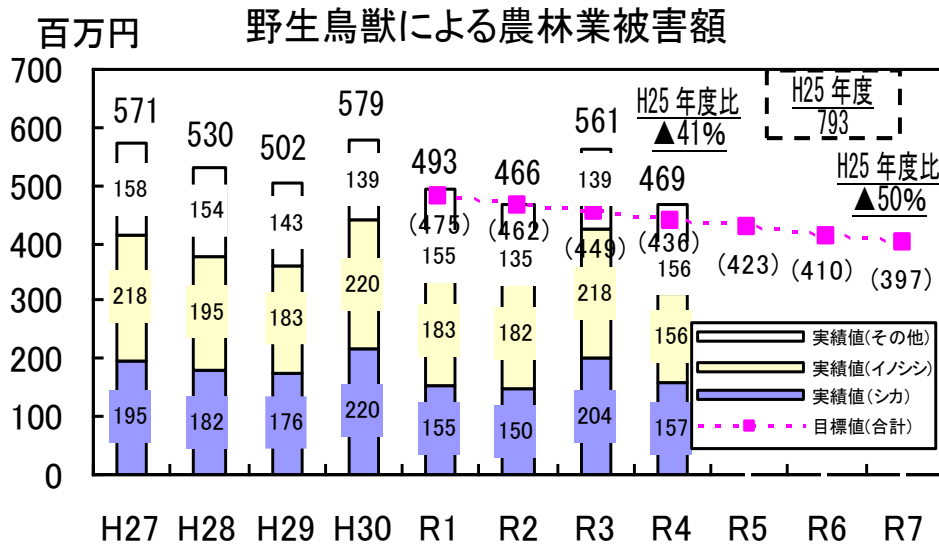
- ・ 県民や企業等に対する活動の意義や活動内容のPR、相互に情報共有や交流を図るための活動発表会等の開催により、ネットワーク化の促進や個々の活動のレベルアップを図る

個別項目 多様な担い手による森づくり活動の推進【評価：◎】（P26）

指標	現況値	R5実績値	R5目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
「企業の森づくり」参加企業数(社)	36 (H29)	46	46	◎	48	50	62社 (R13年度)

- ・ 「企業の森づくり」には、R5年度末までに**46社**の企業等が参加し、多様な担い手による森づくりが進む

重点目標 令和7年度の野生鳥獣による農林業被害額50%削減(平成25年度比)【評価：△】 (P7)



- ・R4年度の野生鳥獣による農林業被害額は約4億6,900万円
シカ：約1億5,700万円 (H22年度4億7,000万円をピークに減少)
イノシシ(農業被害)：約1億5,500万円(減少傾向※)
※豚熱の影響を受けている可能性があるため、今後の被害発生状況を注視する必要がある
 - ・野生動物による農林業被害は減少傾向にあるものの目標未達成
- 【今後の方針】
- ・鳥獣保護管理事業計画に基づき、①個体数管理(捕獲の推進等)、②被害管理(防護柵の設置等)、③生息地管理(広葉樹林の整備等)を進める

個別項目 外来生物対策の推進【○】 (P27～28)

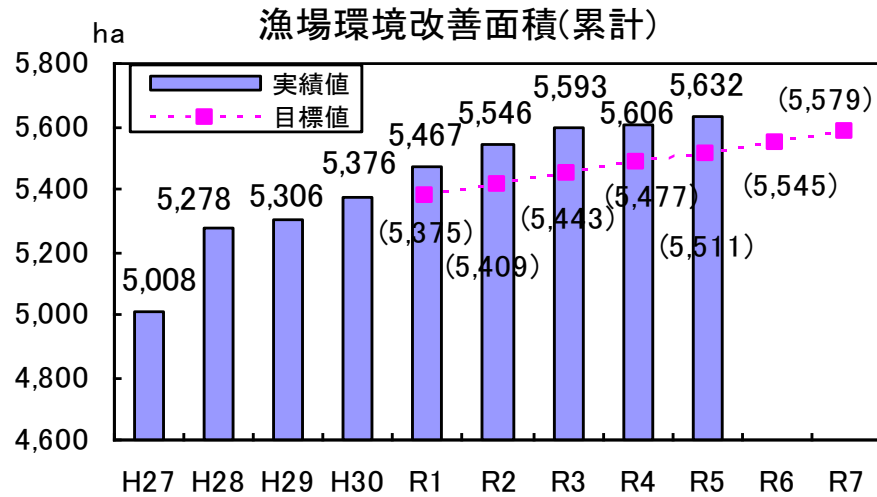
指標	現況値	R5実績値	R5目標値	評価	目標値		【参考】個別計画の目標(目標年度)
					R6	R7	
アライグマ・ヌートリアによる農業被害額(千円)	69,951 (H29)	63,765	58,500	○	56,600	54,687	54,687千円 (R7年度)
アライグマ・ヌートリア捕獲頭数(頭)	5,685 (H29)	9,491	8,000	◎	9,000	9,000	9,000頭 (R6年度～)
外来種を監視・駆除する「見守り隊」の登録数(団体)	9 (H29)	14	14	◎	15	16	-

- ・アライグマ、ヌートリアの捕獲頭数は増えているにも関わらず、農業被害は増加傾向

【今後の方針】

- ・アライグマやヌートリアについて、外来生物法に基づき、市町による防除実施計画の策定有害鳥獣捕獲許可を不要とした計画的で迅速な捕獲活動をより一層進める
- ・ナガエツルノゲイトウや、近年、新たに侵入が確認されたクビアカツヤカミキリやアルゼンチンアリについて、国や市町、専門家などの関係機関と連携し早期防除に取り組む

重点目標 令和7年度の漁場環境改善面積5,579ha【評価：◎】（P8～9）



- ・ R5年度の漁場環境改善面積は**5,632ha**
- ・ 藻場の造成など豊かな海づくりに向けた活動が活発化

【今後の方針】

- ・ 藻場・干潟の再生・創出を行う団体への助成や、海底耕うんやため池のかいぼり等浅海域の保全活動を行う漁業者への支援など豊かな海づくりのための取組を推進
- ・ 兵庫県栄養塩類管理計画に基づき、工場や下水処理場からの計画的かつ順応的な栄養塩類供給に伴う水質の状況を検証
- ・ 産学官民による連絡会議において、藻場拡大やブルーカーボン創出の支援を検討

個別項目 瀬戸内海を豊かで美しい里海として再生するための取組【評価：○】（P31～32）

指標	現況値	R5 実績値	R5 目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
漁船漁業生産量(千t)	56 (H28)	42 (R4)	58	△	58	58	—
海面養殖生産量(千t)	70 (H28)	63 (R4)	69	○	69	70	—
増殖場整備箇所数 (累計)(箇所)	41 (H29)	50	50	◎	52	54	—

Ⅲ 資源循環 ～ものを大切にし、天然資源の使用をできる限り少なくする～

施策の取組状況 (P3)

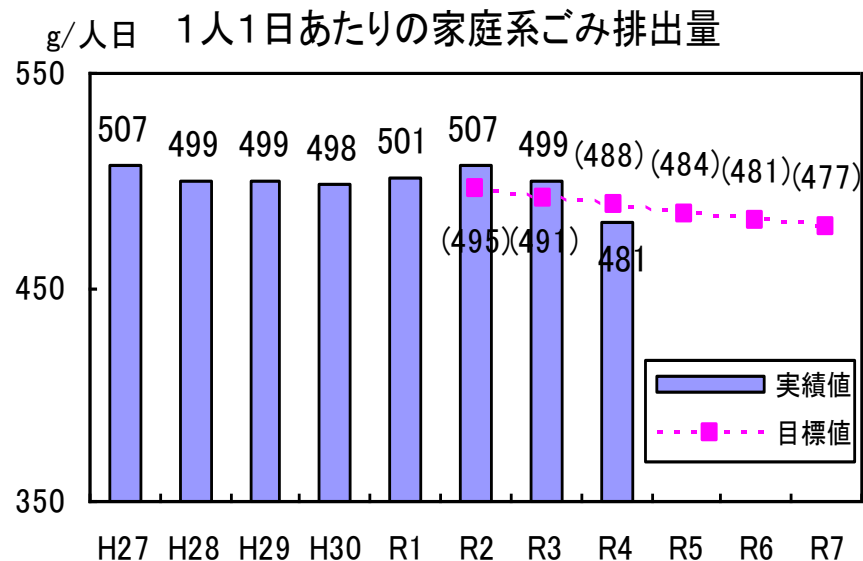
区分		項目(重点目標4 施策の取組状況9)	R5 評価	R4 評価
Ⅲ 資源 循環	重点	R7年度の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量477g/人日	◎	△
		R7年度の最終処分量を一般廃棄物38%、産業廃棄物31%削減(H24年度比)	△	△
		R7年度の最終処分率を一般廃棄物9.9%、産業廃棄物2.5%	△	△
		R7年度のごみ発電能力15%増(H24年度比)	◎	○
	しごと	くらし (1)リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)の推進[一般廃棄物]	○	△
		(2)リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)の推進[産業廃棄物]	△	○
		(3)廃棄物の適正処理の推進	○	○
	まち	(4)廃棄物系バイオマスの利活用の促進	○	○
		(5)質の高いリサイクル(再生利用)の推進	○	○
		(6)廃棄物の適正処理体制の整備	◎	◎
(7)循環型社会と低炭素社会の統合的な取組の推進		◎	○	
さと	(8)不法投棄対策の推進	△	△	
	(9)未利用木質系バイオマスの利活用の促進	○	○	

◎ : 4
○ : 5
△ : 4

(R4)

◎ : 1
○ : 7
△ : 5

重点目標 令和7年度の1人1日あたりの家庭系ごみ排出量477g/人日【評価：◎】（P9）



- ・R4年度の「1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は、481g/人日と減少傾向
- ・ごみの分別に協力している県民の割合も約9割となり、ごみを減らすという県民の意識は定着

【今後の方針】

- ・市町と協力し、食品廃棄物・食品ロスの削減、古紙の回収及びバイオマスの利活用を促進
- ・プラスチックごみ削減に向け、3Rの取組徹底を基本としつつワンウェイプラスチックの削減や地域でのペットボトル回収等新たな資源循環の取組を強化

個別項目 廃棄物のリデュース(発生抑制)、リユース(再利用)の推進[産業廃棄物]【△】（P35）

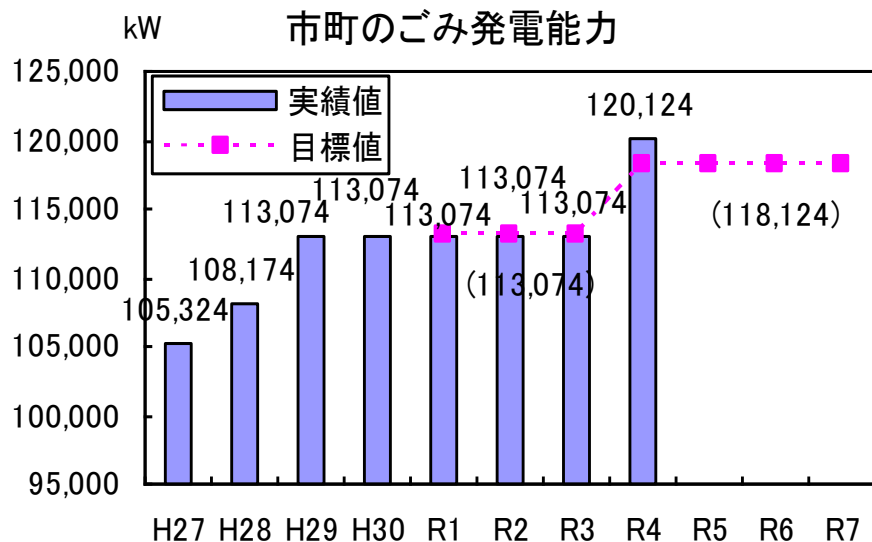
指標	現況値	R5 実績値	R5 目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
産業廃棄物排出量 (千t)	21,209 (R2)	23,410 (R4)	21,460	△	21,465	21,470	21,495千t (R12年度)
産業廃棄物再生 利用率(汚泥除)(%)	82 (R2)	86 (R4)	82	◎	82	82	83% (R12年度)
1人1日あたりの事業 系ごみ排出量(g/人日)	274 (R2)	278 (R4)	267	△	264	260	242/人日 (R12年度)

- ・R4年度の産業廃棄物排出量は23,410千tで新型コロナウイルス感染症による事業活動落ち込みからの回復もあり若干増加
- ・引き続き産業廃棄物の発生抑制に向けた取組を進める必要

【今後の方針】

- ・産業廃棄物多量排出事業者の排出抑制対策をはじめ、汚泥や建設廃棄物の更なる再生利用を促進

重点目標 令和7年度のごみ発電能力15%増(平成24年度比)【評価：◎】 (P11)



- ・市町の一般廃棄物焼却炉への高効率ごみ発電の導入が進んでおりR4年度末現在、120,124kWの発電能力のごみ発電施設が導入
- ・下水汚泥の消化ガスを利用したバイオマス発電など、新たな熱利用による温暖化に配慮した廃棄物処理が広がる

【今後の方針】

- ・引き続き、市町等が的確な施設整備ができるよう、市町等を支援

個別項目 循環型社会と低炭素社会の統合的な取組の推進【評価：◎】 (P38)

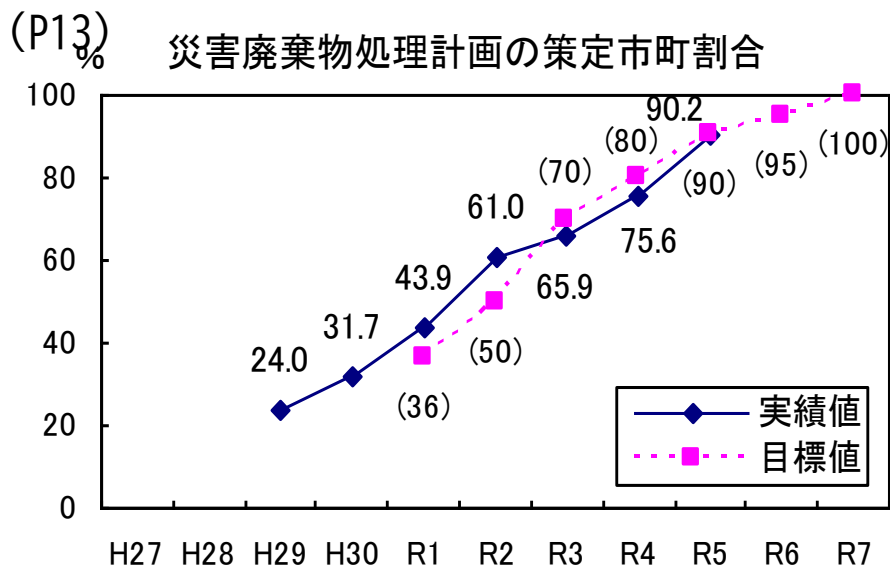
指標	現況値	R5 実績値	R5 目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
市町のごみ発電能力 (kW)	113,074 (H29)	120,124 (R4)	118,124	◎	118,124	118,124	-

IV 安全・快適 ~水や空気のきれいな安全・快適空間をつくる~

施策の取組状況 (P3)

区分		項目(重点目標4 施策の取組状況8)	R5 評価	R4 評価
IV 安全 ・ 快適	重点	河川・海域・湖沼における水環境の良さ(環境基準)100%達成	△	△
		大気ของきれいさ(環境基準)100%達成	○	○
		R7年度の新規登録車(乗用車)のうち次世代自動車の割合48%	◎	◎
		R7年度までに全市町が発災時に適切かつ速やかな対応を可能とする災害廃棄物処理計画を策定	◎	○
(R4) (◎:2 ○:7 △:3)	くらし	(1)県民参加による安全・安心な生活環境づくりの推進	○	△
		(2)公害防止体制の適切な運用	△	△
	しごと	(3)有害化学物質対策等の推進	◎	○
		(4)大気環境の保全	○	○
		(5)公共用水域・地下水及び土壌汚染の防止	○	○
	まち	(6)身近な生活環境の保全	○	○
		(7)災害に強い森づくり等豪雨対策の推進	◎	◎
		(8)災害廃棄物処理の体制づくり	◎	○
さと				

重点目標 令和7年度までに全市町が発災時に適切かつ速やかな対応を可能とする災害廃棄物処理計画を策定 【評価：○】



- ・R5年度までに計画を策定した市町は**90.2%**
- ・災害発生直後の初動対応から災害廃棄物の処理体制が整うまでの応急対応に重点を置いた「兵庫県災害廃棄物処理計画」をR6年1月に改定

【今後の方針】

- ・様々な機会を捉えて計画未策定の市町に計画の必要性を説明するとともに、策定に関する研修会を開催
- ・県及び市町等の廃棄物担当職員を対象とした実践的な図上演習形式の研修会を開催

個別項目 県民参加による安全・安心な生活環境づくりの推進 【評価：○】 (P41)

指標	現況値	R5実績値	R5目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
クリーンアップひょうごキャンペーン参加者数(万人)	57 (H29)	52	57	○	57	57	-

- ・R5年度は、86事業所・団体の協賛、協力をいただき、クリーンアップひょうごキャンペーン期間中、県民**約52万人**が参加し、ごみ等を約4,794 t回収

【今後の方針】

- ・ごみ拾いSNS「ピリカ」の活用を推進する等、今後も引き続き啓発・美化活動を行う

個別項目 有害化学物質対策等の推進【評価：◎】（P42）

指標	現況値	R5 実績値	R5 目標値	評価	目標値		[参考] 個別計画の目標 (目標年度)
					R6	R7	
高濃度PCB廃棄物の 処理状況							
トランス類(%)	84.0 (H29)	100	100	◎	100	100	—
コンデンサ類 (%)	97.3 (H29)	100	100	◎	100	100	—
PCB油類(%)	78.5 (H29)	100	100	◎	100	100	—
安定器等(%)	13.3 (H29)	100	100	◎	100	100	—

- ・PCB廃棄物は、「兵庫県PCB廃棄物処理計画」に基づき、确实かつ適正な処理を推進
- ・低濃度PCB廃棄物は、全国31箇所(うち県内2箇所)(R5年11月時点)の民間事業者による無害化施設が稼働しており、適正処理が進む

【今後の方針】

- ・低濃度PCB廃棄物の処理期限（R9年3月31日）に向け、関係機関と協力して、期限内にPCB廃棄物が処理されるよう保管事業者を指導

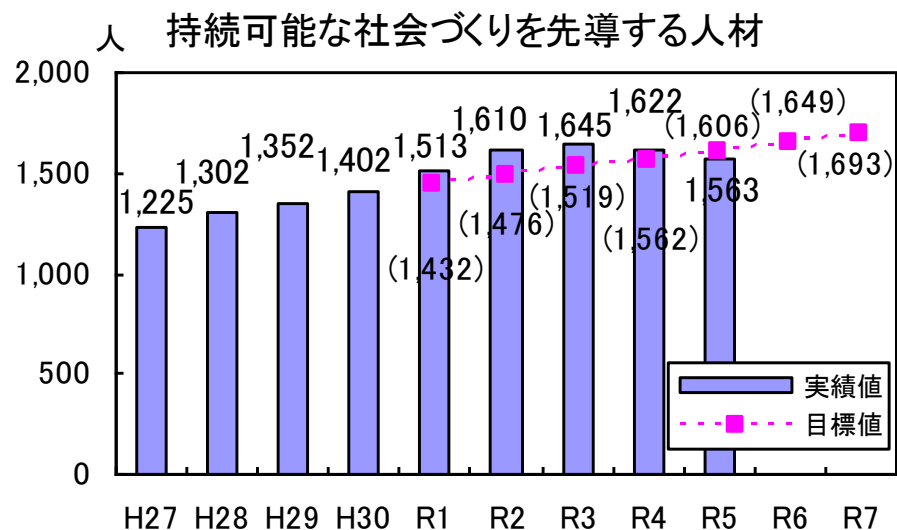
V 地域力 ～あらゆる主体が地域の特性を生かして環境保全・創造に向けて協働する～

施策の取組状況 (P3)

区分		項目(重点目標4 施策の取組状況3)	R5 評価	R4 評価
V 地域力 ◎ : 1 ○ : 5 △ : 1 (R4) ◎ : 1 ○ : 4 △ : 2	重点	R7年度の持続可能な社会づくりを先導する人材30%増 (H28年度比)	○	◎
		R7年度の自主的に環境保全に取り組む事業者数15%増(H28年度比)	○	○
		R7年度の環境保全に取り組むNPO法人数20%増(H28年度比)	○	○
		「ひょうごの環境」ホームページ年間アクセス数100万件	◎	○
		(1)持続可能な社会の実現を目指す人づくり	○	△
		(2)環境産業の育成、事業活動における環境配慮の推進	△	△
		(3)様々な主体との協働による取組の推進	○	○

V 地域力 ～あらゆる主体が地域の特性を生かして環境保全・創造に向けて協働する～

重点目標 令和7年度の持続可能な社会づくりを先導する人材30%増[平成28年度比] 【評価：○】 (P14)

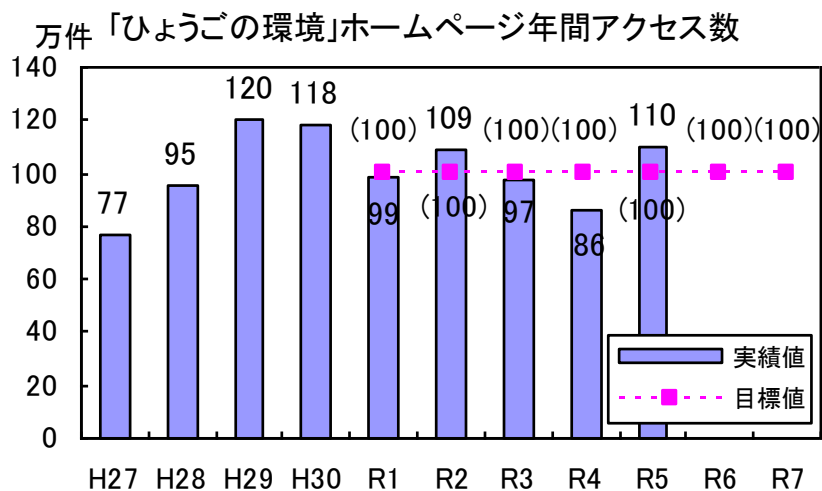


・R5年度までの持続可能な社会づくりを先導する人材(地球温暖化防止活動推進員、森林ボランティアリーダー、ナチュラルウォッチャーリーダー、自然保護指導員、鳥獣保護管理員、持続可能地域士の合計)は**1,563人**、近年横ばいで推移

【今後の方針】

・県民1人1人が、自らの問題として環境問題に関心を持ち具体的に行動することができるよう、引き続き、ふるさとへの関心や愛着を持った次代の環境を担う人づくりを進める

重点目標 「ひょうごの環境」ホームページ年間アクセス数100万件 【評価：◎】 (P15)



・R5年度の年間アクセス数は**110万件**

・訪問経路については、検索エンジン以外のダイレクトトラフィック(参照元なし)の比率が増加(閲覧者の定着、スマホアプリの利用等の影響)

【今後の方針】

・県内の環境状況や環境保全等に関する情報を適切に発信し、利用者にとって利便性や満足度が高いサイトを目指す

V 地域力 ～あらゆる主体が地域の特性を生かして環境保全・創造に向けて協働する～

個別項目 持続可能な社会の実現を目指す人づくり【評価：○】（P47～48）

指標	現況値	R5 実績値	R5 目標値	評価	目標値		【参考】 個別計画の 目標 (目標年度)
					R6	R7	
環境体験事業(小3)、 自然学校(小5)の全公立 小学校での実施(%)	100 (H29)	100	100	◎	100	100	—
地域と協働してふるさ との自然の良さに気づ く学習プログラムを実 施した学校の割合(%)	95 (H29)	92	100	○	100	100	—
ひょうごグリーン サポーター登録者(人)	931 (H29)	873	980	○	990	1,000	—
ひょうご環境体験館利 用者数(人)	30,786 (H25～H29 平均)	30,335	32,000	○	32,000	32,000	—

- ・小・中・高等学校の学校教育活動全体を通じて環境教育が展開
- ・幼児教育においても身近な自然を通じた環境学習を実施
- ・森や海でボランティア活動に参加する県民が増え、自然公園などでの自然とのふれあいを通じて余暇を楽しむ県民が増加

【今後の方針】

- ・脱炭素、自然共生、資源循環、安全・快適の各分野において、地域特性を活かした取組を進め、県民の環境配慮行動を促す